

11 普通教科 家庭

<目次>

- 1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」
P 1 ~ 3
- 2 「指導と評価の年間計画」
家庭基礎 P 4 ~ 6
- 3 「单元ごとの指導と評価の計画」
家庭基礎 P 7 ~ 18

科目の目標

科目の評価の観点及びその趣旨

内容のまとめごと

目標

評価規準

单元ごと

目標

評価規準

各授業時間ごとの主な内容

授業指導案例

1 普通教科「家庭」の評価の観点について

	教科目標と評価の観点との関連	具体的な評価の内容	評価方法例
関心・意欲・態度	家庭科の学習が家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成を目標としていることと関連したものであり、生徒の主体的な学習を進めることや学習したことを実際の生活に生かすことができるようにするための重要な観点。	衣食住の生活、家族・家庭、消費生活などの家庭や地域の生活について関心をもっているか、進んで学習活動に取り組んでいるか、意欲的、積極的に課題解決をしようとしているか、知識と技術を進んで活用しようとしているかなどについて評価する。	学習への取り組み状況の観察、生徒の自己評価、ホームプロジェクトの取組状況、計画立案の積極性、作品等の提出状況、レポートや感想文、実践の記録
思考・判断	家庭科の学習が知識と技術の習得に終わることなく、家庭や地域の生活を見つめて課題を発見する能力、課題解決を目指して思考を深めたり適切に判断したりする能力、工夫したり創造したりする能力などの育成を目標としていることと関連したものである。	衣食住の生活、家族・家庭、消費生活などの家庭や地域の生活について見直して課題を見つけ、その解決を目指して学んだ知識・技術を生かしたいいくつかの方法を比較検討し、意思決定をするなどの工夫し創造する能力について評価する。	学習成果をまとめたレポートや製作物（自分なりの工夫をしているか、自分の考えを生かしているか）、生徒の自己評価、感想文、相互評価、ロールプレイングなどの表現活動
技能・表現	家庭科の学習が生活的な自立や生活の充実向上を目指した問題解決能力の育成を図るための基盤として、基礎的・基本的な技術の習得を目標としていることと関連したものである。	衣食住の生活、家族・家庭、消費生活をよりよくするための基礎的・基本的な技術の習得とともに、それらの技術を応用発展させ、その成果を適切に表現できるかどうか、調査・観察などの技術や適切にまとめて表現できる技術などを身に付けているかについて評価する。	チェックリストを用いた指導者による作業中の評価、生徒によるチェックカードを用いた自己評価・相互評価（製作活動の中での基礎的な技術の定着度や習熟度、作品の完成度の複数の評価方法を活用して評価する）
知識・理解	家庭科の学習が家庭生活の意義や役割を理解するとともに、生活的な自立や生活の充実向上を目指した問題解決能力の育成を図るための基盤として、基礎的・基本的な知識の習得を目標としていることと関連したものである。	人間の発達と生活の営みとのかかわり、家族・家庭生活の意義、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識などについて、断片的にではなく実際の生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているかどうかを評価する。	学習レポート、ペーパーテスト、学習ノート、学習プリント

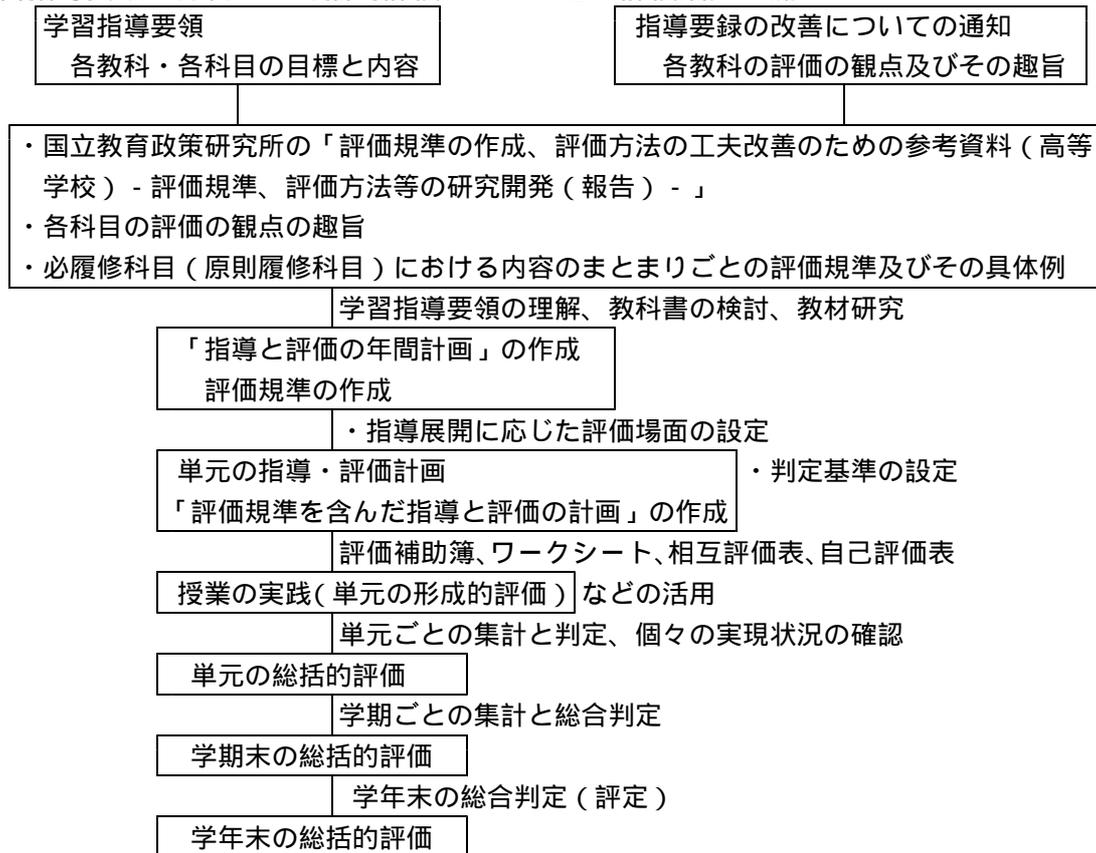
2 家庭科の学習指導と評価の工夫の配慮点

家庭科の学習活動は、教科の目標実現を目指し、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら展開されている。生徒の学習状況の評価は、教科目標の実現状況をみると同時に、教師の指導計画・指導方法が適切であったか、題材は適切であったかを反省し、学習指導の改善に生かすために行っており、今後一層、指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進めることが重要である。そのためには、各学校において評価の観点の趣旨を十分に理解して、指導計画に対応した評価計画を作成することが望まれる。

また、各自の家庭生活はそれぞれに異なっており、家族の状況に応じて変化するものであることから、一人ひとりの生徒が意欲的に取り組む題材や指導の工夫が求められる。さらに、家庭科においては、将来にわたって変化し続ける生活に適切に対応できる能力を育てることが必要であり、特に、意思決定能力や問題解決能力の育成が必要である。このような能力は、各項目での問題解決的な学習はもとより、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践することによって育成することができる。

評価にあたっては、指導後の知識・理解や技能の成果のみに重点を置くのではなく、教師の観察記録とともに生徒の考えの深まりの状況が把握できる自己評価、レポート、感想文などにより一人ひとりの学習状況や変容の姿などを長期的にとらえることが重要である。

3 学習指導要領の分析から総括的評価までの一連の評価活動の流れについて



(1) 「指導と評価の年間計画」について

これは(2)の「評価規準を含んだ指導と評価の計画」の全単元について、その概要を記述したものである。

生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び児童生徒の学習の改善にいかされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して、次の特色をもった年間計画となっている。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、授業内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まったが、この計画は、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイントも含めて記述してある。

評価の方法を記述し、評価から評定への道筋が明確でありかつ説得力をもつように記述してある。

(2) 「評価規準を含んだ指導と評価の計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準を含んだ指導と評価の計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の特色をもつ。

科目全体の評価規準を示した。

「単元ごとの評価規準」及び単元の「各授業時間ごと主な内容」を示した。

各授業時間ごとの主な内容には、「主な学習内容」と「主な学習活動・評価の観点」及び「評価の方法・指導」を示した。

「主な学習活動・具体的評価規準」は、上記の「指導と評価の年間計画」の「評価規準」に反映されていなければならない。

「主な学習活動・具体的評価規準」は、上記の「単元ごとの評価規準」の4観点を具体化したものでなければならない。

普通教科「家庭」

単元ごとの評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
A	B	C	D

各授業時間ごとの主な内容

1 項目名 (授業名)			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	・学習内容の主な項目を記載	・上記Aの具体的な内容【関】 ・上記Bの具体的な内容【思】 評価の観点は次のように略記 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【思考・判断】 = 【思】 【技能・表現】 = 【技】 【知識・理解】 = 【知】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

(3) 「評価規準の作成の手引き」

評価規準については、次の内容構成で作成する。

以下に記述されている、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」は国立教育政策研究所のホームページに掲載されている。

- ・科目の目標 ...学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目の評価の観点及びその趣旨
 - ...学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成
 - 具体的には、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に記載されたもの。
 - ・内容のまとまりごとの評価規準...内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準
 - 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に記載されたもの。
 - 「家庭基礎」においては、学習指導要領の内容の(1)(3)(4)の大項目を内容のまとまりとし、内容の(2)については、ア、イなどの中項目を内容のまとまりとしている。
 - ・単元の目標 ...実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標
 - 学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載
 - ・単元の評価規準...単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。
 - 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に「内容のまとまりごと」の「評価規準の具体例」として記載されたものを基本に記載
 - ・各授業時間ごとの具体的評価規準と方法
 - ...各授業時間ごとに、単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの

家庭基礎

2 指導と評価の年間計画 (2単位)

(第1学年用)

<例1>

目標 【学習指導要領】 到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・家族や家庭の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家庭科の学習を生徒自身の問題としてとらえさせるよう工夫する。 ・乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れたり、事例研究や話し合い、課題ごとの調査・研究を取り入れたりするなどして、生徒が主体的に取り組む学習活動を工夫する。また、家庭クラブ活動との連携を図る。 ・家族の食生活、衣生活及び住生活に関する基礎的な知識と技術について、実験・実習を中心とする学習活動を通して習得させ、各自の家庭生活の場で生かせるようにする。 ・消費者問題や環境問題など、現代の消費生活の課題について認識させ、ライフスタイルの見直しや意思決定など消費者として責任をもった行動ができるようにする。 ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動については、各項目の学習との関連を図り、生徒が主体的に取り組む問題解決的学習として一層充実する。
--	---

月	単元名	使用教科書項目(大塚館 家庭基礎)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	生活を改善しよう	家庭基礎を学ぶに当たって	1	・家庭基礎を学ぶ目的を理解する。履修歴や家庭生活の意識のアンケートを実施し、今後の指導に生かす。	生活意識調査 履修歴調査
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義	1	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義を理解する。	
5月	生活を営む・食生活を営む	(1)食生活を見つめよう	2	・現代の食生活の実態を食生活診断チェックやVTR、新聞記事から考え、改善の重要性に気付く。	診断チェック表 学習プリント 行動観察 献立作成 検定実技・筆記 得点 実習 評価 実験・実習 ノート 研究課題まとめ
		(2)健康な食生活のために ・体に必要な栄養素と食品 ・炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミンとそれを多く含む食品 ・栄養素と食事量 ・家族の食事計画	1 3 2	・家族の毎日の食事に大切な栄養素とそれを多く含む食品の栄養的特質と調理上の性質を理解する。 ・栄養所要量や食品群別摂取量の目安を、日常の食事と関連付け、実物や食品模型を用い量的な感覚で理解する。 ・ライフステージごとの栄養的特徴を理解し、コンピュータソフトを活用して家族構成を考えた献立を作成する。	
		(3)安全な食生活のために ・食品の選択と取扱い ・食品の衛生と安全	1	・身近な食品の表示調査や食品添加物の検出などから環境保全や安全性を意識した食品選択や購入などができる。 ・調理の基本的技術を身に付け調理に関心をもつ。食物調理4級検定を実施し合格する。	
		(4)食事をつくってみよう ・調理の基礎 ・日常食の調理 例 朝食(洋風)、青年期の昼食(中華風)、高齢者の夕食(和風) など	1 6	・調理実習は3回程度実施。栄養、食品、食品衛生、マナー、環境問題、ライフステージ等とも関連付けて計画的に実施する。事前・題材にかかわる学習、事後・栄養計算、手順、感想、研究課題を実習ノートにまとめ提出。	
6月	住生活を営む	(1)住生活を見つめよう 人と住居 現代の住生活 前期中間考査	1	・住居は家族の人間関係や気候・風土と深く関わっていることを資料をもとに考える。	学習プリント 行動観察 中間考査 グループ学習 授業評価表
		テスト返却 授業評価 ライフステージと住まい ライフステージごとの住要求 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	1	・調査資料や広告、キャッチフレーズから住居の機能と快適な生活のための条件を理解する。	
7月	住生活を営む	(2)健康で安全な住生活のために	2	・家族構成やライフステージに応じて住要求が変化することを理解する。 ・住まいを多角的に分析・検討し、安全な住居の条件を理解し、住まいの維持管理に主体的にかかわろうとしている。	授業評価を実施する。
		ホームプロジェクト	2	・夏季休業中にホームプロジェクト実施。	
9月	衣生活を営む	ホームプロジェクト発表	2	・9月に発表、レポート提出、レポート及び作品展示	レポート発表 学習プリント 行動観察 実験・実習 ノート 実験記録 被服カード作成 期末考査
		(3)これからの住生活を考えよう (1)衣生活をみつめよう (2)健康で快適な衣生活のために 前期期末考査	1	・隣近所とのトラブルの例から住まい方のマナーについて考え、暮らしやすい住環境作りへの課題に気付く。 ・様々な場面での着装について、その問題点や課題に気付く、より健康で快適な着装を理解する。	
		(3)これからの衣生活を考えよう テスト返却	2	・制服をテーマに被服の機能を考える。 ・被服の性能に関する実験を通して被服材料の種類と特徴を理解し、被服管理の方法を理解する。 ・被服カード(衣服の表示・価格・使用頻度など)を作成して資源の有効利用や被服計画の必要性に気付く。(表計算ソフト使用)	
10月	資源を生かす	(1)家庭の経済生活をみつめよう	1	・家庭経済のしくみと家計の管理を理解する。	学習プリント 行動観察 実験・実習 ノート 課題調査 グループ学習 相互評価 関連図
		(2)消費生活について考えよう (3)消費者の権利と責任について調べよう (4)環境に調和した生活をしよう	3 2 2	・ライフイベントを挙げ、経済生活の必要性を知る。 ・現代の消費生活の特徴から課題に気付く、シミュレーションを通して、状況に応じた購入を意思決定することができる。 ・生活情報を適切に活用している。 ・トラブルの事例研究やロールプレイングを通して、消費者信用、自己破産、悪質商法、契約の意味を理解する。 ・消費者の権利と消費者保護について調べ学習し理解する。 ・環境と自分の消費者行動との関わりを図式化し理解する。 ・KJ法で生活の工夫のアイデアを考えている。 ・環境に配慮したライフスタイルの条件を考え実践する。	
11月	人生をみつめる	(1)自分の生活をみつめよう (2)人生を展開しよう 後期中間考査	2 4	・自立度をチェック、世代の異なる複数の人へのインタビューなどから、現在自分を取り巻く人やものとのかかわりに気付かせ、これからの課題を考える。	自立度チェック 聞き取り調査 行動観察 学習プリント 授業評価表 中間考査
		(1)家族・家庭をみつめよう (2)テスト返却 授業評価 (3)家庭生活と社会について考えよう	1	・新聞などから家族や家庭の抱える問題を把握する。 ・アルバイトや地域の社会支援システムの調査などから社会制度としての家族や、これからの家庭や社会の在り方考える。 ・授業評価を実施する。	
12月	ともに生きる	(1)子どもの成長・発達と生活について知ろう (2)親になることを考えよう (3)子どもの人権と福祉について考えよう	3 2 2	・ビデオ教材(ビデオクリップ)などの視聴で理解する。 ・妊婦体験や乳幼児との交流、調べ学習で乳幼児の特徴と現代の子育ての問題や地域の子育て支援策を理解する。 ・「児童憲章」「児童福祉法」などに示された児童福祉の理念をペーパーサートで発表する。	行動観察 学習プリント 視聴記録 課題発表
		(1)高齢者の生活をみつめよう (2)高齢者の福祉について考えよう (3)これからの高齢社会を考えよう	3 1 1	・高齢者との交流や聞き取り調査などで高齢者の特徴や生活を理解する。 ・福祉先進国の福祉制度やサービス、国民負担を調べ、我が国の高齢者福祉の課題を認識する。	
2・3月	生活をつくる	家庭基礎学習のまとめ 生活を創造しよう 生活設計 後期期末考査	2 1	・1年間の学習を生かして自分の将来について考える。(生活設計)	生活設計 年間の反省 期末考査
		合計時間数	70		

家庭基礎

指導項目と内容のまとめりごとの具体の評価規準の年間指導計画例<例2>

項目	単元	指導項目	時間	形態	観 点 別 評 価				評価方法
					関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
前期 35時間	オリエンテーション	家庭基礎を学ぶに当たって	2	講義	・家庭科の学習について関心・意欲をもって学習活動に取り組んでいる。			・家庭科を学ぶ目的を理解している。 ・「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の意義について理解している。	生活意識調査 履修歴調査
	家庭の生活と健康 食生活の管理と健康	生活を営む (1)食生活をみつめよう (2)健康な食生活のために (3)安全な食生活のために (4)食事をつくってみよう (5)これからの食生活を考えよう	16	講義・実験・実習・グループ学習	・家族の栄養と食事について、各自の食生活を振り返って考えようとしている。 ・主な食品の特質や調理法などに関心を持ち調理実習・実験に取り組んでいる。 ・安全で衛生的な食生活について考えようとしている。	・栄養的にバランスのとれた食事について、日常の食事と関連づけて具体的に考えている。 ・現代の食生活の問題点について思考を深めている。 ・調理の安全・衛生について具体的に考えている。	・食品の栄養的特質と調理上の性質を身に付けている。 ・調理の基礎技術を身に付けている。 ・配膳や食事のマナーを踏まえ、楽しく食事する工夫ができる。 ・安全と衛生に配慮した調理ができる。	・栄養的にバランスのとれた食事の重要性や栄養素の種類と機能、各ライフステージごとの栄養的な特徴を理解している。 ・栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安を日常の食事と関連づけて理解している。 ・主な食品の栄養的特質と調理上の性質を理解している。 ・食品の腐敗や変敗、食中毒、食品添加物などについて理解している。	診断チェック表 学習プリント 調理実習実験・実習記録 献立作成(PC) VTR 視聴記録 ペーパーテスト
	住生活の管理と健康	住生活を営む (1)住生活をみつめよう (2)健康で安全な住生活のために	7	講義・実習	・住居の機能に関心を持ち、健康で安全かつ適切な住生活を営むための方法を考えようとしている。	・健康で安全かつ適切な住生活を営むための方法について具体的に考えている。	・広告やキャッチフレーズから、家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができる。	・家族の生活の場としての住居の基本的な機能を理解している。 ・健康で安全かつ適切な住まい方や計画的な維持管理の必要性について理解している。	学習プリント 行動観察 中間調査 グループ学習 授業評価表
	H家庭とク学校	HPの計画と実施 HPの発表	4		・HPに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	・生活の中から課題を見だし、課題解決に向けて思考を深め、適切に判断している。	・目標を明確にし、計画を立てて実践できる。	・HPの意義と実施方法について理解している。	
後期	衣生活の管理と健康	衣生活を営む (1)衣生活をみつめよう (2)健康で快適な衣生活のために (3)これからの衣生活を考えよう	8	講義・実験・グループ学習	・被服の機能に関心を持ち、健康で快適な着装について考えようとしている。 ・被服材料の性能や改善に関心を持ち、被服材料の選択や被服の管理について考えようとしている。	・被服の機能と着装について家族の衣生活とかがわらせて考えている。 ・用途や着用目的に合った被服材料の選択や被服管理について具体的に考えている。	・着用目的に応じて健康的で快適な着装ができる。 ・用途や着用目的に合った被服材料の選択や被服材料に応じた洗濯ができる。 ・被服カードを作成し資源の有効利用や被服計画を検討できる。	・制服から被服の保健衛生的な機能と社会的機能について理解している。 ・被服材料の種類と特徴及び着心地や手入れ・保管にかかわる性能を理解している。 ・洗剤の働きと汚れが落ちる仕組み、乾式洗濯と湿式洗濯の特徴や利用上の注意について理解している。 ・資源の有効利用の観点に立った被服計画の必要性を理解している。	学習プリント 被服カード作成による調査研究(PC表計算) 実験記録(被服材料被服管理) ペーパーテスト
	消費生活と環境	資源をいかに (1)家庭の経済生活をみつめよう (2)消費生活について考えよう (3)消費者の権利と責	8	講義・実習・グループ	・家庭の経済生活、社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任について関心を持ち、適切な意思決定や消費行動について考えようとしている。 ・消費生活と環境と	・消費者として主体的に判断できるようになるために、消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について考えている。 ・環境負荷の少ない生活を目指して、	・社会の変化にともなう家計の管理や消費生活の課題について具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。 ・環境負荷の少ない	・家計の管理、家庭経済と国民経済との関わりについて理解している。 ・消費生活の現状と消費者の権利と責任について理解している。 ・消費生活と環境との	学習プリント 課題調査 ロールプレイング自己・相互評価 ペーパーテスト

家庭基礎

期	人の一生と家族・福祉	任について調べよう (4)環境に調和した生活をしよう	ブ学習	のかかわりについて関心をもち、環境負荷の少ない生活の実践を目指して工夫しようとしている。	生活意識や生活様式を見直している。	生活を目指し、消費生活と環境とのかかわりについて検討することができる。	かかわりについて理解している。		
		生涯発達と家族	6	講義・実習	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭生活の在り方や生活設計などについて考えようとしている。	・自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について具体的に考え、自己の生活設計ともかかわらせながら考えを深めている。	・充実した人生を送るための生活設計の検討ができる。	・生涯発達の考え方に立ち、各ライフステージごとの特徴と課題について理解している。	実習プリント レポート
		ともに生きる	4	講義グループ学習ディベート	・家事労働などがかわらせて各自が担う家庭での役割について関心をもち、男女が協力して家庭や社会を築くことを目指して学習活動に取り組んでいる。	・現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などを取り上げ、固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について考えを深めている。	・現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などについて具体的な事例を調査・研究し発表したりすることができる。 ・固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について意見交換したりできる。	・現代の家族の特徴及び家庭の機能について理解している。	自立度チェック 聞き取り調査 新聞記事等 ディベート ペーパーテスト
		子どもを育てる	7	講義・グループ学習	・乳幼児の心身の発達の特徴に関心をもち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのようにかわったらよいかなど、保育の在り方について具体的に考えようとしている。 ・乳幼児の健やかな発達を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。	・子育ての意義について考え、子育てを通して得られるものについて考えを深めている。 ・現代の子どもが育つ環境の変化などについて課題を見付け、それらの原因及び解決について考え、社会全体で子どもを支援することの必要性について思考を深めている。	・妊婦体験や乳幼児との交流などの学習を通して、乳幼児との触れ合いや交流を深めができる。	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び福祉について具体的に理解している。	新聞記事等 レポート VTR視聴 記録 学習プリント ペーパーテスト
		高齢者と生きる	5	講義・グループ学習・実習	・高齢者の心身の特徴と生活に関心をもち、高齢者を肯定的にとらえようとしている。 ・高齢者を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。	・高齢者の心身の特徴の一般的な変化と個人差に気づき、高齢者の生活の実態と課題について具体的に考えを深めている。	・聞き取り調査、ロールプレイングや疑似体験を通して、高齢者との交流を深めることができる。	・高齢者の心身の特徴と生活及び福祉について具体的に理解している。	ロールプレイング自己 ・相互評価 疑似体験自己 ・相互評価 聞き取り調査 学習プリント ペーパーテスト
	生活をつくる	(1)生活を創造しよう	3	講義・実習	・自分の将来について関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	・生活の中から課題を見だし、課題解決に向けて思考を深め、適切に判断している。	・充実した人生を送るための生活設計を立案することができる。	・各ライフステージの課題について理解している。	生活設計 年間の反省

3 単元ごとの指導と評価の計画

1 科目の目標

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

3 「(1) 人の一生と家族・福祉」(内容のまとめごと)の評価規準

内容のまとめごとの目標

人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人の一生の営みとしての家族や家庭生活、乳幼児と高齢者の生活と福祉などに関心をもち、家族や保育・福祉の学習を自分の問題としてとらえ、意欲的に学習活動に取り組んでいる。	生涯発達の視点から、青年期の課題を踏まえて、家庭生活の在り方、乳幼児及び高齢者の生活、家族・社会の果たす役割などについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	家族や家庭生活について調査・研究などができるとともに、交流などの実践的活動を通して、乳幼児や高齢者と適切にかかわるために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生涯発達と家族、乳幼児の発達と保育・福祉及び高齢者の生活と福祉について総合的に理解し、人の一生の営みを自分の問題としてとらえるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

家庭基礎

<人の一生と家族・福祉> 生涯発達と家族

単元の目標

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。

単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭生活の在り方や生活設計などについて考えようとしている。 家事労働などがかかわらせて各自が担う家庭での役割について関心をもち、男女が協力して家庭や社会を築くことを目指して、学習活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について具体的に考え、自己の生活設計ともかかわらせながら考えを深めている。 現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などを取り上げ、固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族の特徴や家庭の機能とその変化などについて、具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。 固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭について意見交換したり、充実した人生を送るための生活設計の検討ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の考え方に立ち、各ライフステージごとの特徴と課題について理解している。 現代の家族の特徴及び家庭の機能について理解している。

各授業時間ごとの主な内容

1 自分をみつめる			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	自分をみつめる 自分らしさ 自分の性格や特徴 ○20年後の自分は？	○今の自分及び20年後の自分にかかわる人やものについて考え、今の家族や社会との接点の重要性について考えようとしている。【関】 ・自分の性格や特徴の分析チェック ・「20年後の自分」の作文	学習プリント
第2時間目	○高校生にとっての自立とは？ ○家族の一員としての役割	○ライフステージごとの自立について理解し、家族の一員としての役割と今現在の自分の生活課題を考えている。【思】 ・自立度チェック ・自分の生活課題をふまえたホームプロジェクトのテーマ設定	○自立度チェック ○学習プリント
第3時間目	○いろいろなライフコース ○ライフステージ毎の発達課題と生活課題	世代の異なる人へのインタビューからライフステージの変化に気付き、各ライフステージごとの特徴や課題を理解するとともに、人は生涯発達し続けることを理解している。【知】 ・世代の異なる人へのインタビュー	○学習プリント（インタビューレポート含む） ペーパーテスト

家庭基礎

第4時間目	○ライフスタイル 生活時間をどう設計するか 家事労働を考える	家族のライフスタイルの特徴をまとめ、家族の一員としての時間の使い方を考え、改善プランを積極的に取り組んでいる。【関】 ・数日間の生活時間を記録 ・充実した生活時間への改善プラン立案 ・改善プランの実施（事後の課題）	○生活時間の表（数日間課題 改善前と改善後） ○学習プリント
第5時間目	○働くこととは ○自分の進路と職業選択	○グループごとにインタビュー内容を世代別、男女別にまとめ、職業の種類や労働形態を理解し、各自の職業観・勤労観を話し合いまとめている。【技】 ・身近な就業者へのインタビューレポート ・自分が就きたい職業を発表	○学習プリント（インタビュー含む） ○班別学習の取組状況 ○班別レポートと感想
第6時間目	生活設計の必要性 結婚を考える	○「結婚」について自分の言葉で意見し、話し合いから生活設計の必要性とそのポイントに気づき、充実した人生を送るための検討ができる。【技】 ・「結婚する派」「結婚しない派」のディベート ・生活設計の立案は「家庭基礎」の学習のまとめで行うことを確認	発言とその内容 学習プリント 生活設計の立案（学習のまとめで実施）
第7時間目	○現代の家族の特徴 ○家庭の機能とその変化	○世代の異なるライフコースの比較から、家庭の機能とその変化を取り上げ、現代の家族の特徴を理解するとともに、社会に対する機能も理解している。【知】 ・今現在の家族の関係度や機能度のチェック	○学習プリント（家族関係の表含む）
第8時間目	○家族に関する法律 あなたならどう考える	○法律クイズの事例から、家族に関する法律について理解し、事例の解決策や社会制度としての家族について考えている。【思】 ・法律クイズ	発言とその内容 学習プリントの提出と記述内容
第9時間目	○男女共同参画社会と家庭	○固定的な性別役割分業意識や男女の協力に関する新聞記事等から現状を知り、固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族 ・家庭が必要であることを理解している。【知】 ・男性らしさ、女性らしさの判断チェック	○発言状況 ○学習プリント（チェックシート含む）

家庭基礎

< 授業指導事例 >

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単元名	第1節 自分をみつめる	
本時主題	1 自分をみつめる (3時間目/9時)			
本時の 目 標	世代の異なる人へのインタビューからライフステージの変化に気付き、各ライフステージごとの特徴や課題を理解するとともに、人は生涯発達し続けることを理解する。			
過 程	指導の内容	学 習 活 動	評価について	
導 入 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代の異なる人へのインタビュー (課題確認) ・ 本時の目標の確認 	<p>1 課題の世代の異なる人へのインタビュー内容を確認し、わかることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューの内容の比較検討から、ライフステージの変化と課題、その契機となる出来事を考えることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代の異なる人へのインタビューの課題ができているか確認する。 ・ 課題をやっている生徒に対し意欲をほめる。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ライフステージの特徴と課題 ・ 社会の変化と発達課題 ・ 生涯発達の視点 	<p>2 世代ごとに特徴を発表する。世代ごとの課題は何かを考えながら、発表を学習プリントにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世代ごとの特徴と考えられる課題をまとめ、ライフステージごとに比較する。 ・ ライフステージごとに課題が変化していくことに気付く。 <p>3 ライフステージの移行の契機となるできごととは何かを考え、発表する。</p> <p>4 戦後から現在までの、結婚・出産年齢、子どもの扶養期間、老後期間の変化をデータから読みとり、このような社会の変化に伴って発達課題がどのように変化したか考え、意見をまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化に伴い発達課題も変化することを理解する。 ・ 人はライフステージごとの課題を解決しつつ一生を通じて発達し続けるという生涯発達の考え方を理解する。 	<p>【評価規準 知】</p> <p>世代の異なる人へのインタビューからライフステージの変化に気付き、各ライフステージごとの特徴や課題を理解するとともに、人は生涯発達し続けることを理解している。</p> <p><評価方法> 学習プリント、ペーパーテスト</p> <p>Aの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世代の異なる人へのインタビューから各ライフステージの課題に気付き、特徴を具体的にまとめている。 ・ 社会の変化に伴って、各ライフステージの課題も変化していることを具体的にまとめている。 	<p>< Bを実現するための指導 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に発表するよう促す。 ・ 世代ごとに比較できるよう板書を工夫する。 ・ ライフステージの移行がどのようなできごとを契機におこるか考えさせる。 ・ データは婚姻率、平均初婚年齢、年齢別出生率など推移がわかるものを用意する。データはプリント及びプロジェクタで全体に示す。 ・ 今の自分を振り返らせ、生涯発達の視点をしっかり押さえる。 ・ 家族や他の人の多様な生き方や価値観を尊重し、共生していく姿勢を強調する。 <p>< Cへの手だて ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期の自分と異世代の家族を具体的に考えさせる。
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の青年期の発達課題を確認する。家族のライフステージと生活課題を確認する。 ・ それぞれのライフステージの人とのかかわりについて考え、互いを尊重し共生していくことに関心をもつ。 ・ 自己評価する。 		

<人の一生と家族・福祉> 乳幼児の発達と保育・福祉

単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の発達の特徴に関心を持ち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいかなど、保育の在り方について具体的に考えようとしている。 ・子どもの健やかな発達を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての意義について考え、子育てを通して得られるものについて考えを深めている。 ・現代の子どもが育つ環境の変化などについて課題を見付け、それらの原因及び解決について考え、社会全体で支援することの必要性について思考を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究や実践的な学習を通して、乳幼児との触れ合いや交流を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び福祉について具体的に理解している。

授業時間ごとの主な内容

2 乳幼児の発達と保育・福祉			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	子どもを生き育てること 親としての責任	○妊婦疑似体験を通して、子どもを生き育てることに興味を持ち、親の責任について考えようとしている。【関】 ・「子どもを生き育てること」から連想する言葉を記入（ウェビング法） ・自分が生まれた時の様子を聞き取り調査	学習プリント（ウェビング、聞き取り調査含む） ○行動観察
第2時間目	○乳幼児の心身の発達	○乳幼児の心身の発達の特徴を理解する。【知】 ・保育人形で、新生児の体重・身長を計測 ・「乳幼児の発達のビデオクリップ」	○学習プリント
第3時間目	○基本的な生活習慣の形成	○乳幼児期の食生活の生活課題を理解し、基本的な生活習慣の形成や社会的規範を身に付けることが重要であることを理解する。【知】 ・離乳食の試食	○学習プリント ○行動観察

普通教科「家庭」

目 第 4 時 間 目	○子どもの遊びと発達 ○子どもの保育環境	○祖父母世代、親世代、自分の乳幼児期の遊びと、現代の乳幼児の遊びに関心を持ち、調査に積極的に取り組んでいる。【関】 ○「保育園実習」の映像と説明から、集団保育の様子を知り、集団保育の意義と役割について考えている。【思】 ・聞き取りやインターネットなどで調査 ・発展課題として、身近な材料で児童文化財を製作し、適する発達段階と活用方法を考察	学習プリント（遊び体験レポート含む） ○発展課題の提出（児童文化財の製作と活用）
第 5 時 間 目	○親の役割と保育 ○愛着とは ○子どもと親の相互関係	○親や家族が子どもにどのように関わったらよいか考え、「愛着」が人間関係の基礎となることを理解している。【知】 親の保育態度の影響に気付くとともに、親自身も親として育てていくことを認識する。 【思】 ・子育てに関するVTR視聴	学習プリント（視聴記録含む）
第 6 時 間 目	○少子社会における親への子育て支援策 子育ての意義と楽しさ	○少子社会における親への子育て支援策の種類と活用法について調べることを通して、子育ての意義と楽しさを考えている。【思】 ・調査や乳幼児をもつ親へのインタビュー（または交流）	○行動観察 学習プリント
第 7 時 間 目	○児童福祉の理念 ○子どもが育つ環境	○「児童憲章」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」などから児童福祉の理念を読み取り発表したりまとめたりすることができる。 【技】 ○新聞記事などの事例を通して、子どもが育つよりよい環境を保障するために親や家庭、社会が果たす役割を考えようとしている。 【関】 ・1時間目に作成した「子どもを生き育てること」のイメージマップに記入	発表 ○学習プリント 「子どもを生き育てること」のウェビング

<人の一生と家族・福祉>	高齢者の生活と福祉
--------------	-----------

単元の目標

高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。

単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の特徴と生活に関心をもち、高齢者を肯定的にとらえようとしている。 ・ 高齢者を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の特徴の一般的な変化と個人差に気付き、高齢者の生活の実態と課題について具体的に考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例研究や実践的な学習を通して、高齢者との触れ合いや交流を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の特徴と生活及び福祉について具体的に理解している。

授業時間ごとの主な内容（次ページに示す。）

家庭基礎

単元ごとの指導と評価の計画 ペーパーテストについては、その授業時間中に実施するのではなく、ある程度の内容のまとまりで実施するものとする。

3 高齢者の生活と福祉							
	主な学習内容	目標・学習活動	学習活動における具体的評価規準				評価の方法
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1時間目	人の一生と高齢期	高齢化のデータや高齢者をイメージすることから高齢社会の特徴や問題点に気づき、高齢期を自分の問題としてとらえ、自分とのかかわりに関心をもつ。 ・地域の高齢化に関するデータの読みとり ・高齢者のイメージ調査	地域の高齢化に関するデータや高齢者をイメージすることから高齢化や高齢者に関心をもち、その特徴及び課題に気づき、まとめようとしている。	高齢期を自分の問題としてとらえ、今の自分と高齢者とのかかわりについて考えている。			観察(取組状況・発表) ○学習プリント(イメージ数含む)の提出と記述内容 ペーパーテスト
第2・3時間目	高齢者の心身の変化の特徴と生活 高齢者疑似体験	高齢者の心身の変化の特徴と生活を理解し、高齢者との関わり方、充実した高齢期のため今すべきことをまとめることができる。 ・身近な高齢者への聞き取り調査 ・高齢者疑似体験			高齢者への聞き取り調査等から、高齢者の生活を理解し発表している。 高齢者の疑似体験から、高齢者のかかわりからだところの変化の特徴をまとめ、発表している。	高齢者の加齢に伴うからだところの変化の特徴と生活を理解し、これからの自分の生き方に結びつけて考え、自分の言葉で言える。	観察(取組状況・発表) 聞き取り調査の内容 学習プリント(聞き取り調査、実習記録含む)の提出と記述内容 疑似体験自己・相互評価 ペーパーテスト
第4時間目	ロールプレイング 「親の扶養、あなたならどうする」 これからの高齢社会を	老親を扶養することを通して、高齢者と家族との関係や高齢社会の問題点を考え、これからの高齢社会のあり方を考えることができる。 ・ロールプレイング		ロールプレイングにおいて、高齢者と家族の適切な関係や高齢社会の問題点について考え、工夫している。	親の扶養をテーマにロールプレイングし、親の扶養に対する自分の考え及びその理由についてまとめたり発表したりしている。		観察(取組状況・発表) ロールプレイング自己・相互評価 学習プリントの提出と記述内容 ペーパーテスト
第5時間目	高齢者の福祉の基本的な考え方 高齢者を支える家族の役割と福祉サービス	高齢者福祉の基本的な考え方、高齢者福祉に関する法律や制度、地域及び社会の福祉サービスや高齢者福祉施設について理解させる。 【発展課題】 ・介護保険制度、地域の福祉サービス、福祉先進国の福祉を調査 ・ホームプロジェクト ・ボランティア活動	高齢者を支える地域及び社会の福祉サービスの在り方について考えようとしている。			高齢者福祉の基本的考えを認識している。 高齢者を支える地域及び社会の福祉サービス、高齢者福祉施設の役割について理解し、説明できる。	○学習プリントの提出と記述内容 発展課題(ホームプロジェクトやボランティア活動)の提出 ペーパーテスト

家庭基礎

< 参考資料 1 > 自己評価表 (例)

自分発見カード「人生をみつめともに生きる」

年 組 番 氏名

学習内容	学習を振り返り、自分を見つめよう				4・3・2・1	月 日	わかったこと・できるようになったこと・疑問として残ったこと・これからしたいこと
	意欲的に取り組んだ	考え判断した	できた	わかった			
自分を見つめる	今の自分と20年後の自分を人やものともかかわり積極的に考えた。	今の自分と20年後の自分を人やものともかかわり考え、家族や社会とのつながりに気付いた。		家族や社会との接点が重要であること、自分の生活が変化していくことがわかった。			
自己評価							
高校生にとって自立とは	自立度チェックから自分の自立度に関心をもった。	自立度チェックから高校生にとっての自立とはどういうことか考えた。	自立について発表した。	ライフステージごとの自立や家族の一員としての役割を果たすことが大切であることがわかった。			
自己評価							
ライフステージごとの発達課題と生活課題	異世代の人へインタビューし、まとめることができた。	異世代の人へインタビューからライフステージごとの発達課題と生活課題を考え、生涯発達の視点でとらえることができた。	異世代の人へインタビューした。レポートを発表した。	各ライフステージの特徴や課題、社会の変化にともなう発達段階の変化がわかった。			
自己評価							
生活設計を考える	家族の一員としての時間の使い方を考え、実践したい。		1日分の生活時間を3つの時間に分類し示すことができた。	生活設計とライフスタイルの関係や家族の一員としての役割を果たすことの重要性がわかった。			
自己評価							
男女共同参画社会と家庭		男性らしさ、女性らしさの判断から自分の性別役割分業意識を見直すことができた。	固定的な性別役割分業意識や男女の協力に関する新聞記事をもとに自分の意見を発表できた。	固定的な性別役割分業意識の見直しや男女が協力して築く家族・家庭が必要であることがわかった。			
自己評価							

単元の流れがわかるように単元ごとに作成する例

< 参考資料 2 > 乳幼児の発達と保育・福祉の学習前・後のウェビング法による評価例

子どもを生き育てることとは

「子どもを生き育てることとは」から連想する言葉を自由に書かせる。線でむすんでもよい。

生徒の興味・関心の流れを図式化しようとする技法である。

「乳幼児の発達と保育・福祉」の単元の始めと終わりに実施する。シートは同じものを使用し、連想した語彙数の変化と語彙の質を評価する方法である。

家庭基礎

< 参考資料 6 > 調理実習の補助簿例（実習台の座席表を用いたもの）

<p>実習内容 青年期の昼食（中国料理の基礎）</p> <p>1年組 実習日 月 日第 限</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">A「十分満足できる」状況と C「努力を要する」状況を記入 空白は「おおむね満足できる」状況と判断</p>	<p>評価規準</p> <p>【関】本時の献立の調理に関心を持って取り組み、調理技術を習得しようとしている。</p> <p>【思】食材の特質を生かした調理法や盛りつけを工夫している。</p> <p>【技】適切な切り方、加熱方法、調味方法により調理ができる</p> <p>【技】食品や調理器具等を安全で衛生的に取扱い、ごみを適切に処理できる。</p>																																																																																
(1 班)	(2 班)																																																																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">関</td><td style="width: 10%;">思</td><td style="width: 10%;">技</td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td></tr> <tr> <td>A</td><td></td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td>A</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>C</td><td>C</td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td>A</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	関	思	技								A			氏名	氏名	A					C	C		氏名	氏名				A					氏名							<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">関</td><td style="width: 10%;">思</td><td style="width: 10%;">技</td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>C</td><td></td><td></td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	関	思	技											氏名	氏名									氏名	氏名						C			氏名						
関	思	技																																																																															
A			氏名	氏名	A																																																																												
C	C		氏名	氏名				A																																																																									
			氏名																																																																														
関	思	技																																																																															
			氏名	氏名																																																																													
			氏名	氏名																																																																													
C			氏名																																																																														
(3 班)	(4 班)																																																																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">関</td><td style="width: 10%;">思</td><td style="width: 10%;">技</td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td></tr> <tr> <td></td><td>A</td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	関	思	技									A		氏名	氏名									氏名	氏名									氏名							<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">関</td><td style="width: 10%;">思</td><td style="width: 10%;">技</td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	関	思	技											氏名	氏名									氏名	氏名									氏名						
関	思	技																																																																															
	A		氏名	氏名																																																																													
			氏名	氏名																																																																													
			氏名																																																																														
関	思	技																																																																															
			氏名	氏名																																																																													
			氏名	氏名																																																																													
			氏名																																																																														
<p>数回の調理実習で計画的にすべての生徒について観察できるようにする。 （少人数授業で1回の実習ですべての生徒を観察できる場合は毎回観察してもよい。） C「努力を要する」と判断される生徒については、適切な支援をするとともに、もう一度観察する。</p>																																																																																	

< 参考資料 7 > 調理実習の自己評価・相互評価

できた ×できなかった ×はその理由を考えよう

	観 点	自己評価 チェック（理由）	相互評価 評価し合おう
五 目 う ま 煮 ど ん ぶ り	材料の扱い方	豚肉の下味が適切である。 干しいたけのそぎ切りができています。 材料の大きさがそろっている。 スープ、水溶き片栗粉の準備ができています。	
	加熱の状態	強火で一気に仕上げ、火が通っている。 とろみが均一でだまができていない。	
	できばえ	食品の色が生かされている。 とろみ加減が適当である。	
	調味	塩、こしょうが適当である。	
涼 拌 三 絲	材料の扱い方	きゅうりの下処理が適切である。 材料の切り方（4cmせん切り）がそろっている。	
	加熱の状況	はるさめの加熱方法が適切である。	
	できばえ	食品の色が生かされている。	
	調味	甘みと塩味と酸味のバランスがとれている。	
	盛り付け 配膳	盛りつけがそろっている。 配膳の位置が適切である。	
感想			